

### ステップ3 ルート、インターチェンジ配置計画を提案します。

#### (1) ルート帯の検討

大沢野道路は敷地幅が広い(50~60m)ため、市街地の中にルートを設置すると数多くの家屋移転が生じ、まちづくりに大きな影響を及ぼします。

このため、ルート配置は市街地を避けた位置から神通川までの間の概ね1kmの範囲内とします。

ここでルートは、ステップ2で整理した基本的な考え方にもとづき、以下の2つのルート帯が考えられます。

#### ■第1案 神通川ルート帯

～既成市街地から極力遠ざけて、  
大沢野道路を整備する～

主要地方道富山笹津線より、  
神通川側とするルート帯

#### ■第2案 市街地ルート帯

～既成市街地に極力近づけて、  
大沢野道路を整備する～

主要地方道富山笹津線より、  
市街地側とするルート帯

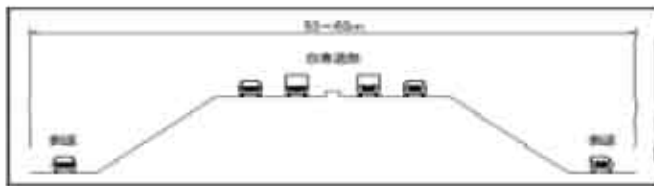


図. 大沢野道路の敷地幅のイメージ

今後の検討において、それぞれのルート帯を組み合わせたルートも考えられます。

凡 例		
用途地域界	---	
土地利用	商業系	斜線
	工業系	格子
	住居系	点線
	福祉・レクリエーション系	波線

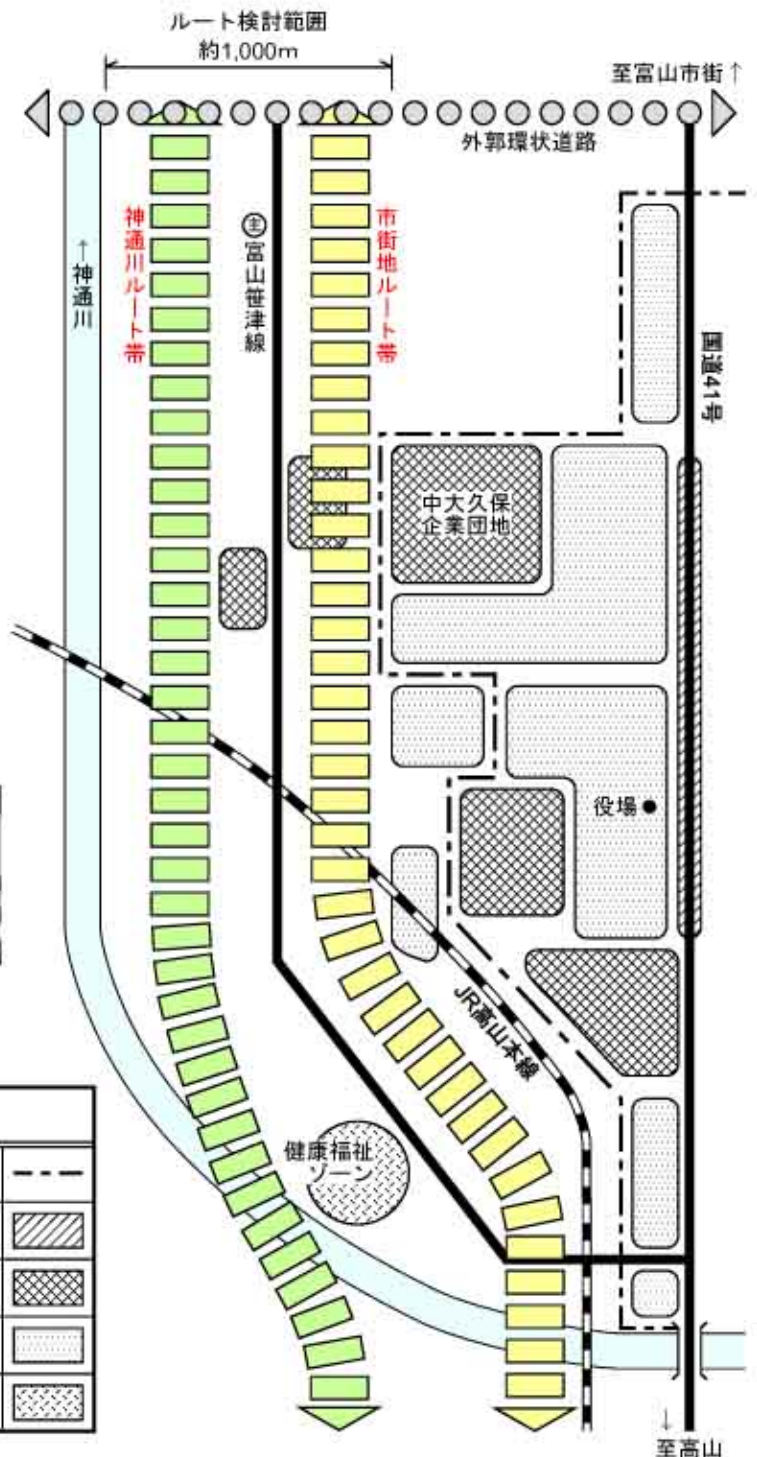


図. 2つのルート帯の考え方